

会 告

「鉄と鋼」特集号原稿募集のお知らせ

テーマ： **ステンレス鋼**

原稿締切 昭和 51 年 9 月 8 日 (水)

近年、わが国のステンレス鋼はその使用分野の拡大、需給量のいちじるしい伸長にともない、その品質の安定性の向上、さらに新しい改良品種の開発が活発に行われつつあり、講演大会でのこの分野の発表件数も大幅な増加を示しております。

そこで、今回材質関係の特集号として、標記テーマによるものを企画いたしました。内容はステンレス鋼の製錬技術の発展、冷間加工性、溶接性、耐食性等に関する技術資料を軸とし、これら材質に関連する論文、技術報告を配した構成を考えております。この特集号を充実した内容のものとするため、関連ある論文、あるいは技術報告をふるつてご投稿下さるようご案内いたします。

記

1. 原稿締切日：昭和51年9月8日(水)
2. 原稿枚数：(論文)・本会所定原稿用紙(450字詰) 図、表、写真を含め 50枚以内(刷り上り10頁以内)
(技術報告)・本会所定原稿用紙 図、表、写真を含め 35枚以内(刷り上り7頁以内)
3. 発行：鉄と鋼 第63年第3号(昭和52年3月号)
4. 原稿送付先：100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会編集課 (電 03-279-6021)
(投稿に当つては、原稿表紙にステンレス特集号と朱書き下さるようお願いいたします)

「鉄と鋼」掲載記事に対する誌上討論投稿依頼について

日本鉄鋼協会編集委員会

本会編集委員会では、会誌が会員の皆様に役に立つよう種々検討いたしておりますが、その中の一つとして「鉄と鋼」に掲載された論文等に対する誌上討論についても、活発にすることを決め、積極的に投稿されるよう周知方ご案内いたすことといたしました。

ご承知の通り会誌「鉄と鋼」には論文、技術報告あわせて年間掲載数は150件に及んでおります。

このような論文、技術報告の内容に関して広く会員との討論が活発になされれば、将来の研究ならびに技術の進歩発展に寄与するところ大なるものがあると考えます。

このようなことから、編集委員会では「鉄と鋼」に掲載された論文、技術報告を初め研究速報、討論会予稿等に対し、意見、例証、反証等の形でどしどし投稿されることを希望いたします。

記

1. 原稿枚数 本会所定の原稿用紙3枚以内(表、図、写真含む)
2. 投稿 同一論文に対する討論をまとめて掲載できるようになるべく会誌掲載後1カ月以内程度に投稿されることを希望いたします。また、討論事項に添て論文名、執筆者名、掲載号頁を記して下さい。
3. 掲載 掲載にあつては討論事項をまとめ著者の回答を求めるうえで、一部編集委員会で削除、加筆をすることがあります。
4. 投稿先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会編集課 電 03-279-6021(代)

第92回(秋季)講演大会開催日程のお知らせ

第92回(秋季)講演大会は、昭和51年10月2日(土)、3日(日)、4日(月)東北工業大学で開催されます。講演募集締切は7月末日の予定です。

東北工業大学：仙台市長町字越路19

鉄鋼基礎共同研究会 遅れ破壊部会シンポジウム

水素による遅れ破壊の機構

去る昭和 50 年 11 月 27 日に予定しておりましたシンポジウムは、国鉄ストの為延期致しましたが、下記日程で開催致しますので奮つてご参加下さいますようご案内申し上げます。

主 催 鉄鋼基礎共同研究会遅れ破壊部会 (日本学術振興会・日本金属学会・日本鉄鋼協会)

日 時 昭和 51 年 5 月 17 日 (月) 9:30~17:00

会 場 新丸ビル・大会議室 (地下 1 階) 東京都千代田区丸の内 1-5-1 TEL (03) 211-6211

プ ロ グ ラ ム

- | | | |
|-----------------|------------------------|-------------------------|
| (1) 9:30~10:00 | 挨拶および遅れ破壊部会経過報告 | 阪大基工 藤田 英一 (部会長) |
| (2) 10:00~11:15 | 電子論的, 原子論的観点から見た遅れ破壊 | 東大工 堂山 昌男 |
| (3) 11:15~12:30 | 水素を吸蔵した単結晶の変形と破壊 | 国鉄技研 松山 晋作 |
| (4) 13:30~14:45 | 遅れ破壊における破壊力学・フラクトグラフィー | 神鋼中研 酒井 忠迪 |
| (5) 14:45~16:00 | 水素脆性における炭化物の役割 | 東工大 中村 正久
都立大工 坂木 庸晃 |

(6) 16:00~17:00 パネルディスカッション

テキスト 過去 5 年間における部会活動の最終報告書「水素による遅れ破壊の機構」260 頁

価格 1,500 円 (送料本会負担)

参加費無料 (事前の申込みは必要ありません)

お問い合わせ先及びテキスト申込み先

日本鉄鋼協会技術部 古米 正 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
TEL (03) 279-6021 (代)

遅れ破壊部会報告書内容

水素による遅れ破壊の機構

前記シンポジウムに使用されるテキストの内容は次の通りとなっております。

I 部会設立の趣旨と経過概要

II 遅れ破壊の現象について

III 研究組織および報告書の概要

IV 各人による報告

- | | |
|--|--|
| (1) 遅れ破壊の理論と鉄中水素に関する二, 三の実験
(阪大基工 藤田 英一) | (8) 鉄単結晶の降伏および歪硬化挙動におよぼす水素の影響
(鉄道技研 松山 晋作) |
| (2) 鉄単結晶による遅れ破壊の伝播機構に関する研究
(九大応力研 北島 一徳) | (9) 鋼中の水素の挙動と水素脆化について
—マクロ的解析からミクロ解析へ—
(阪大工 菊田米男・荒木孝雄・落合真一郎) |
| (3) 陽電子消滅法による遅れ破壊の研究
(東大工 堂山 昌男) | (10) 高力ボルト材の遅れ破壊潜伏期の機構
(新日鉄基礎研 南雲道彦・門田安弘) |
| (4) 電顕オートラジオグラフによる α Fe および Ni 中の水素の分布の研究
(東北大工 平野 賢一) | (11) 鉄鋼材料の遅れ破壊に関する 2, 3 の実験
(住金中研 寺崎富久長・中里福和) |
| (5) 鉄鋼中の水素の挙動
—特に転位との相互作用について—
(名工大 浅野 滋) | (12) 高力ボルトの遅れ破壊促進試験法について
(新日鉄製品技研 鈴木 信一) |
| (6) 鋼中における水素の拡散挙動
(川鉄技研 中井 揚一) | (13) 水中遅れ破壊における破面と Strech Zone の観察
(神鋼中研 藤田 達・酒井忠迪) |
| (7) 鋼中における水素誘走現象の X 線的観察
(山口大工 蒲地 一義) | (14) 純鉄の機械的性質におよぼす水素の影響
(日本揮発油 泉山昌夫・沢田昇龍) |
| | (15) 水素ガス (室温) による高張力鋼の脆化
(日鋼室蘭 大西敬三・加賀 寿) |
| | (16) V, Mo を含む焼戻し 2 次硬化鋼の水素脆性
(東工大 中村正久)
(都立大工 坂木庸晃) |
| | (17) 強力鋼の腐食環境下の遅れ破壊に関する研究
(金材技研 金尾正雄・青木孝夫・荒木 透) |
| | (18) 鋼材の水素脆性における腐食の役割
(新日鉄基礎研 岡田秀弥・湯川憲一・村田朋美) |

第17回高压討論会

共催 日本鉄鋼協会, 他

日時 昭和51年10月1日(金), 2日(土)

会場 共済ビル(札幌市中央区北4条西1丁目)

討論主題 1) 高圧力発生法および装置, 2) 高圧下の物性, 3) 高圧下の反応

講演申込締切 昭和51年6月15日(火)

B5判の用紙に, 1) 発表者氏名(講演者に○), 2) 勤務先, 3) 所在地, 4) 連絡先(住所, 氏名), 5) 講演主題番号, 6) 講演題目, 7) 講演概要(100字程度), 8) 所属学協会名, を記入[1), 2), 6), は英文名も]し, 下記あてお申し込み下さい。なお講演時間は講演15分討論5分とし, スライドを使用して下さい。

講演要旨締切 7月31日(土)

参加申込締切 8月31日(火)

参加費 3,000円(含予稿集代)

申込先 060 札幌市北区北13条西8丁目

北海道大学工学部応用化学科 松下 徹
[電話(011)-711-2111 内線 6571, 6572]

第15回 MET SHOW (金属表面技術総合展)

主催 金属表面技術協会 協賛 日本鉄鋼協会, ほか

期日 昭和51年6月26日(水)~29日(土)4日間

場所 東京都立産業会館
東京都千代田区大手町1-1

電話 03(231)2561

(国電「東京駅」徒歩5分, 地下鉄「大手町」徒歩2分)

時間 10:00~17:00

入場 自由(無料)

内容 最新の素材, 設備, 機械, 薬品など内外
100余社が出品
一般展示のほか, 特別展示, 技術相談コーナー, 書籍販売, 技術講演会

MIT 夏季セミナー開催の案内

MIT では別記テーマの夏季セミナーを6月28日から7月2日まで開催いたします。参加を希望される方は, 直接主催者にご連絡下さい。

記

1. テーマ Reliability of Welded Structures
2. 期日 1976年6月28日(月)~7月2日(金)
3. 場所 Massachusetts Institute of Technology
4. 連絡先 1) Prof. Kiochi Masubuchi Department of Ocean Engineering and Materials Science
Massachusetts Institute of Technology
Cambridge, Mass. 02139 U.S.A.
2) Director of the Summer Session
Room E19-355, M.I.T.
Cambridge, Mass. 02139 U.S.A.

第23回腐食防食討論会開催案内(第2報)

主催: 腐食防食協会 協賛: 関連学協会

日時 昭和51年10月14日~16日(木・金・土)

場所 日本都市センター別館 講堂(東京都千代田区
平河町2-4-1 TEL 03-265-8211)

発表申込受付締切 昭和51年5月30日(土) 期日厳守

主題 局部腐食の予測・診断・対策

討論会は3日間を予定しておりますが, 基礎・予測・診断・対策の4分野に分け, それぞれ次の項目を設定しました。

1. 局部腐食の基礎

2. 予測

2-1. 試験法

2-1-1. 粒界腐食

2-1-2. 隙間腐食と孔食

2-1-3. 応力腐食と腐食疲労

2-2. プラントテストと実験室試験との関係

3. 診断

3-1. 事例解析手法

3-2. 電位測定 アコースティックエミッション等による診断法

4. 対策

4-1. 材料開発

4-2. 環境制御

4-3. 電気防食

4-4. 防食設計

4-5. 事例と対策

全体としては, 材料が局部腐食に耐えるにはどうしたらよいかという実際面を中心にした項目になっておりますが, 前述したように基礎応用のパイプをつないで行くことを本会合の主眼としておりますので, 基礎研究に従事されておられる方々には機構の面から予測・試験法に対する新しい展開, 診断技術の検出端に関する新しい情報, また, 従来とかく発表の少なかつた防食設計に対する基本的考え方などについてご発表願えれば幸いです。

添付用紙により昭和51年5月30日(土)までに奮って発表の申込をお願いいたします。

参加費(予稿集代共)

本会々員 予約 5,000円, 当日 7,000円

学生会員 予約 3,000円

協賛団体会員 予約 6,000円, 当日 7,000円

連絡先(送付先)

〒101 東京都千代田区神田神保町2-23

腐食防食協会 TEL 03-261-3275

<参加費等の詳細については次号でお知らせいたします。>